

令和3年度 学校評価総括表

教育目標	○「明るく、強く、美しく」生きぬく人間づくり ○ 児童生徒の自立と社会参加を目指した生きる力の育成		総合評価
運営方針	・様々な取組の目的や想いを再確認し、必要に応じて見直しや改善を図る ・学部や分掌(部)をより組織的に機能させるとともに、相互の一層の連携を図る		A
令和3年度の成果と課題	令和3年度の重点目標	具体的目標	
<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して取り組んできた授業づくり研修と授業支援や授業会議がリンクし、本校のカリキュラムマネジメントをすすめることができた。</li> <li>・新学習指導要領に基づく観点別評価の実施に向けて職員研修を進めることができた。</li> <li>・クラス、保健スタッフ、自立活動担当等が朝のカンファレンスを継続することで、児童生徒の異常の早期発見につながった。</li> <li>・感染症対策補助金により、必要な備品及び消耗品の購入をすすめることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続き、関係機関と連携しながら感染症対策を行う。</li> <li>②センターの役割として各市町村の教育支援委員会等に参加し、インクルーシブ教育の充実、適正就学をすすめる。</li> <li>③個別の指導計画および個別の教育支援計画を保護者と連携して作成し、本校の教育内容を理解いただく。</li> <li>④職員の世代交代が進むなか、肢体不自由教育の専門性をつなげていく。</li> </ul>	1 児童生徒個々の目標を共有し、より良い授業づくりや授業改善を推進する。	①実態に即した授業づくりや授業改善、学習評価の実施 ②実態に応じた教育課程による系統的な指導 ③肢体不自由教育・病弱教育の専門的指導力の向上 ④個別の教育支援計画の充実及び指導計画の円滑な運用 ⑤肢病併置校の特性を生かした生徒の自主的活動の促進	
	2 児童生徒の自立や社会参加に向け、発達段階や障害の状況に応じて継続的な取組を推進する。	①キャリア教育の理解と推進 ②進路学習や進路体験学習の充実 ③障害者スポーツ大会等への積極的な参加の推進 ④保護者、地域等との連携強化 ⑤共生社会の実現に向けた取組の推進	
	3 医療機関等との連携を強化し、児童生徒の健康状態の保持・改善を図る。	①児童生徒の体調変化への適切な対応 ②教職員の医療的ケアのスキル向上及び医療機関等との連携を強化 ③専門医等との連携強化及び教育内容・環境の充実 ④教職員の緊急時対応のスキル向上	
	4 児童生徒の実態に応じた教育環境づくりと完全安心の確保に向けた取組を推進する。	①安全でわかりやすい環境整備 ②災害時備蓄品(医療的ケア物品・常備薬等)の整理 ③災害等に対する意識や対応力の向上 ④スクールバス安全運行及び緊急時対応スキルの向上	
5 特別支援教育のセンター的役割を果たすとともに、インクルーシブ教育の推進に寄与する。	①就学に向けた積極的な情報提供 ②障害者理解の推進 ③肢体不自由教育や病弱教育のセンター的役割強化 ④地域等への積極的な情報発信		
6 効果的・組織的に業務を推進するとともに、教職員の人権・個人情報保護等に対する意識の向上を図る。	①日常業務等の効率化 ②教職員の個人情報やプライバシー保護及び人権意識の向上 ③児童生徒の自尊感情の醸成 ④各種のハラスメントの防止 ⑤積極的な学校改善の推進		

評価項目	具体的目標	具体方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価及び分析
授業づくり・授業改善	① 実態に即した授業づくりや授業改善、学習評価の実施	積極的な授業支援の実施	(自活・教企部) A	(教育企画部) 今年度は観点別評価の在り方および実態把握という観点から全体研修を実施し、間接的な授業支援を行った。(自立活動部) 身体を通した学習場面での支援は減ったが、学部からの支援要請に伴って、その都度学部ににてフポイント研修を行い、課題の吸い上げによる支援を実施した。	(教育企画部) 来年度は授業づくり研修を各学部・部門で取り組む予定である。その中で授業支援も並行して行っていきたい。(自立活動部) 動作の課題や授業支援など、各学級や学部から、スムーズに情報を共有するため、今年度は利用できなかった各学部の支援希望シート等を利用して、支援要請の声を吸い上げていきたい。	○ 個々の児童生徒の可能性を最大限に引き出す指導の充実から、授業づくり・授業改善については、引き続き取り組んでいきたいと考えます。  ○ 肢体不自由教育・病弱教育の専門的指導力の向上 ・年々教員が異動等かわっていき、経験が十分な先生から新任の先生までおられると思います。専門的指導力の向上は現在のみならずこれまでも言われてきたことだと思います。大学や全国大会への参加機会の確保、経費の確保は難しい状況ですが、少しでも容易になるように努めてほしいと思います。 ・研修会への参加が難しい状況の中で、教員一人ひとりが各自で研鑽を積むようにしていくことも必要だと思います。 例えば、国立特別支援教育研究所の「学びラボ」「インクルDB」などの活用、自校の教員が、講師となって研修した内容を録画しておき、自由に視聴できるようにしておくなど 細かく研修をして頂いているのは、ありがたいです。知識は教員全体で共有していただきたい。 ○ 個別の教育支援計画の充実 ・すでに把握しておられると
		事例検討会の実施	(教企部・各学部) A	今年度は全体研修のみ実施した。	訪問教育は教員が個別に訪問して授業を行っている、情報の共有は大切なため継続する。個別の指導計画の確認会議や評価は、来年度も写真や動画を使用し課題等を深める。	
		課題共有のための支援会議の実施	(訪問) B	今年度は全体研修のみ実施した。	担任や副担任以外の複数訪問・管理職訪問は必要に応じて実施することができたが、夏期休業の通学教員の訪問が限定された。来年度も新型コロナウイルスの状況等にあわせて継続する。来年度の複数訪問は年度内のどこかで同行ができるよう計画する。	
		複数訪問の実施	(訪問) B	今年度は全体研修のみ実施した。	観点別学習状況評価に関しては教育企画部と教務部で連携し、学校全体で研修を進めているところである。	
② 実態に応じた教育課程による系統的な指導		実情を踏まえた教育課程編成・検討	(教務部) A	教育課程審議を中心に学部ごとに教育課程の検討を行い、編成した。高等部の新学習指導要領にも準拠し、生徒の実態に応じた教育課程の編成を行った。	観点別学習状況評価に関しては教育企画部と教務部で連携し、学校全体で研修を進めているところである。	
		学級・授業会議をととし、課題共有	(小学部) B	教務の教員を中心に必要に応じて授業会議の時間を設定した。また、感覚と運動の高次化理論を活用し、グループ編成を再確認する場をもった。	感覚と運動の高次化理論やSスケールの活用を探り、より児童の実態に迫り、系統的に課題設定を行えるよう取り組んでいく。	

		学級・授業会議をとおり、課題共有	(中学部)	A	A	授業会議では教科のねらいを3観点で整理し、授業内容や手立てを確認しながらチームで授業づくりができた。	様々な場面で情報共有し、評価し改善を図りながら、継続的な指導を行っていく。また、系統的な指導ができるよう、必要な資料などを作成し継続的な指導を行っていく。	<p>思いますが、昨年6月に個別の教育支援計画の参考様式が出されましたが、参考様式をもとに見直しは行われているのでしょうか。見直されているならば、五條市では個別の教育支援計画は統一様式を作成して活用しているの、見直しの参考にしたいと思います。</p> <p>○自己評価がCとされている項目はコロナの関係で開催ができなかったものと思いますが、開催の有無を指標としているものについては評価無しでもよいのではないかと思います。</p> <p>○2年間にわたるコロナ禍で、大変ななか、工夫を凝らして学校生活を行って頂いていることに感謝します。そして、クラスターが発生しなかったことにほっとしています。ありがとうございました。</p>
		学級・授業会議をとおり、課題共有	(高等部)	A		授業主指導教員が担任教員と一緒に目標について話をし、反省についても行い、生徒に合った形ですすめられている。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。	
③	肢体不自由教育・病弱教育の専門的指導力の向上	インタレスト研修、自主研修の実施	(自活・教企部)	A	A	(教育企画部) 4回のインタレスト研修を実施。特にケース検討では、話題提供者を募り、グループ討議をするという新たな形で実施した。特に重度の児童生徒のコミュニケーション・意思決定に関するニーズは高かった。 (自立活動部) 全体研修を行えない中、夏期休業中に希望者を募って実施した。①側弯への対応②股関節への対応③手指・腕の動きを引き出す④座位保持装置⑤摂食指導についての用意した9つの研修の内、5つを実施した。	(教育企画部) インタレスト研修や自主研修については、校内のニーズを把握し、専門性の向上につながる内容を効果的に計画したい。 (自立活動部) 今までに蓄積した基本研修を各個人や学級・学部で閲覧できるようにして、研修したいときに活用していく。また、できる範囲で様々な内容について伝達・共有できるように、研修機会を増やす。 ○動作の手技や発達について ○車椅子の基本 ○介助の基本(抱き方、衣服の着脱、移乗) ○装具の装着の仕方 ○排痰支援等々	<p>○自己評価がCとされている項目はコロナの関係で開催ができなかったものと思いますが、開催の有無を指標としているものについては評価無しでもよいのではないかと思います。</p> <p>○2年間にわたるコロナ禍で、大変ななか、工夫を凝らして学校生活を行って頂いていることに感謝します。そして、クラスターが発生しなかったことにほっとしています。ありがとうございました。</p>
④	個別の教育支援計画の充実及び指導計画の円滑な運用	支援会議を年4回開催	(自活部)	C	C	部長が専任でなくなり、部長の時間の持ち方、働き方が変わった。各学部への見回り時間の確保が難しくなったため、支援会議を廃止した。	支援会議は来年度も廃止の方向だが、支援相談シート等の活用によって、学級・学部より課題を吸い上げ直接学部・学級に返していけるように代替措置を考える、	<p>○自己評価がCとされている項目はコロナの関係で開催ができなかったものと思いますが、開催の有無を指標としているものについては評価無しでもよいのではないかと思います。</p> <p>○2年間にわたるコロナ禍で、大変ななか、工夫を凝らして学校生活を行って頂いていることに感謝します。そして、クラスターが発生しなかったことにほっとしています。ありがとうございました。</p>
		授業改善に向けた運用とシステムの充実	(教務部)	B		従来のExcleによる個別の指導計画と校務支援システムを併用して進めた。必要に応じて進め方や操作方法に関する研修を実施し、教員のスキルアップにつなげた。A,B課程の自立活動や、C課程の教科の評価など改善の余地がある。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。	
		健康面からの課題を支援計画に反映	(健安部)	C		手段としては、「けんこうのチェックリスト」を年度末に各クラスに記入してもらうのみ。児童の実態を年度初めに把握して、年度末に変化があれば追記する。	R3年度は、「身体と健康の支援会議」が実施できなかったため、直接各クラスと話せる場がなくなった。次年度、各クラス・自活部長・健康安全部長・医療的ケア委員長・養護教諭が話す場が必要であれば検討が必要。	
⑤	肢併置校の特性を生かした生徒の自主的活動の促進	生徒の実態に応じた自主的活動の学習内容の工夫・充実	(高等部)	C	C	コロナ禍の中で行事も減り、取り組む機会が少なかった。	取組の機会や内容を検討する。	<p>○自己評価がCとされている項目はコロナの関係で開催ができなかったものと思いますが、開催の有無を指標としているものについては評価無しでもよいのではないかと思います。</p> <p>○2年間にわたるコロナ禍で、大変ななか、工夫を凝らして学校生活を行って頂いていることに感謝します。そして、クラスターが発生しなかったことにほっとしています。ありがとうございました。</p>
児童生徒の自立と社会参加		教員研修の促進	(教務部・教企部)	A	教育研究所指導主事および大学教授を講師に招き、観点別評価および実態把握に関する研修を計画的に実施できた。	今年度の研修テーマである観点別評価の在り方、実態把握、目標設定について学んだ基礎知識をもとに来年度は国語・算数の授業を取り上げ、よりよい授業改善に関する研修を実施したい。	<p>○卒業後の生活に向けた支援体験学習の実施</p> <p>学校のグランドデザインにもあるように、児童生徒の自立と社会参加に向けて取り組みをすることから、学校として支援体験学習の取組は大事であるとともに、そのことを指導する教員の進路・福祉サービスの研修は充実させたい。</p>	
		教員・保護者対象の進路研修の実施	(小学部)	B		例年、参観後の保護者会で保護者対象進路研修を実施していた。今年度は感染症対策から、保護者向けの進路研修を実施できていない。	保護者と連携するためにも進路や福祉の情報は欠かせない。年度の早い時期での実施を計画し、教員の理解の推進を図る。	

①	キャリア教育の理解と推進	児童生徒会活動の活性化	(特活部)	B	B
		児童生徒個々の目標設定の促進	(進路部)	A	
		市町村・事業所等の情報を各学部へ提供・共有	(進路部)	A	
②	進路学習や進路体験学習の充実	進路指導計画の作成	(高等部)	A	A
		総合的な探求の時間・HRの有効活用	(高等部)	B	
		学習成果発表の機会の促進	(特活部・進路部)	A	A
		卒業後の生活に向けた支援体験学習の実施	(中学部)	B	B

<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で活動内容の精選をせざるを得なかった。</li> <li>・クラブ活動は、出来る範囲の中で各学期すべてで実施することができた。</li> <li>・クラブ活動を支援する教員の確保が課題である。</li> <li>・児童生徒会活動の実施が限られた物となったが、始業式や終業式、各行事の案内など、リモートや放送を使って伝える活動を積極的に行うことが出来た。</li> <li>・毎月1回、生徒会役員を中心として挨拶運動をコロナ対策で3ヶ所に分かれて実施。1月は挨拶強調月間として、挨拶運動の回数を増やして実施することができた。</li> <li>・毎年行われているクリーンキャンペーンは、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。</li> <li>・児童生徒会選挙では、新型コロナウイルス感染症対策により、午前と午後投票を分け、使用物品の消毒を行いながら実施することができた。</li> <li>・文化鑑賞会やたばな祭など文化行事は実施できず、挨拶や司会進行を生徒会役員中心に行ってもらうことができなかった。</li> <li>・たばな祭の代わりとして昨年度に引き続き「校内作品展」を開催した。開催中は、児童生徒会役員より放送を使ってPRをしたり、ポスターを作ったり、給食リクエストメニューを出してもらったりして行事が盛り上がるよう計画を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスに対する対応状況によるが、実施可能な状況となれば、感染症対策を十分に検討し対策を取った上で児童生徒会活動を行いたい。</li> <li>・昼休みのクラブ活動において、サポート教員の協力体制を新たに提案するなどして、回数を増やせるように努めたい。</li> <li>・生徒会役員の公約も含め、生徒会役員の主体性や果たすべき役割を確認しながら、準備・実行のサポートを行い進めていきたい。</li> <li>・クリーンキャンペーンについては、実施できる方向となった時には、参加者を広げるために、児童生徒会役員から参加を呼びかけられるように進めたい。</li> <li>・児童生徒会として、小学部の参加の在り方について、今後の課題として検討と改善を図りたい。</li> </ul>
担任と協力して目標を設定している。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。
新たな情報を教員や保護者に向けて提供している。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。
進路部長と担任が連携して計画をすすめ、個々の進路体験学習をすすめられた。	コロナの影響で就労支援セミナー等が実施できず、外部の方との関わりが少なくなった。できる形で実施できるように検討していく。
地域との協働推進事業により、地域の方と里山のあり方について考える機会となった。初めての試みだったが、良かった。	次年度も地域とさらに連携し、取り組んでいく。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症のため、昨年に続いてたばな祭は中止となった。代わりに、体育館を使用した校内作品展を、感染症対策を実施して行うことができた。実施運営方法に課題はあったものの、児童生徒の学習成果を発表する場を確保できたと思われる。保護者のほとんどから高評価を得ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、感染症の状況によるが、たばな祭を実施する予定で計画立案、準備を行っていききたい。なお、実施に当たっては、保護者や教員など、あらゆる立場の意見を踏まえた上で、慎重に検討を行っていくようにする。</li> <li>・校内作品展で出てきた反省と課題は、今後の学習発表を行う行事の中で十分に生かされるようにしていく。</li> <li>・たばな祭については、必要に応じて各会場運営の見直しを行う。応援体制に対しても、可能な限り協力体制を図る。</li> </ul>
保護者のニーズに合った見学先を選び、事業所見学という形で実施した。希望制であったが、半数の生徒が参加し、新しい事業所の様子を知るとともに、保護者にも情報提供できた。	教員も進路や福祉サービスに関する研修を積み、より良い情報提供ができるようにしていく。支援体験学習への参加を呼びかけ、生活に必要なサービスや卒業後の生活について考える機会を提供する。

ていくことか一番大事であると考えます。また、参加できなかった保護者や生徒に対して、体験の様子を録画しておき、視聴させたり、進路学習にも活用できるのではないかと考えます。

○ 児童生徒会活動で、自分たちの学校である明日香養護学校をよくするために、児童生徒はどんなことを考えているのか。どんなことをしてほしいのか等について考えさせられるのであればやっってはどうかと考えます。

○ 各種スポーツの体験及び機会の促進について、過去に車いすサッカーで日本代表になり、アジア・オセアニア大会に出場した高等部の生徒もいた。今後も外部の大会に参加できるようにしてやりたい。また、芸術面でも県障害者作品展、アート展にのみならず、日本肢体不自由児協会主催の肢体不自由児・者の美術展・デジタル写真展や明日香村の文化祭を含め各地域の文化祭に出品できるように努めていた。また、発表の場があればと思います。

	③ 障害者スポーツ大会等への積極的な参加の推進	各種スポーツの体験及び機会の促進	(体安部)	B	B	国から推進されているラジオ体操をどの学部も行った。高等部AB1課程(肢・病)ではスポーツテストを継続実施し、昨年度と比較して自分の力を知ることができた。体育の授業では、ポッチャ、FD、ピンバグ、スラロームなど、各学部とも障害者スポーツを楽しむことができた。大会に参加することで努力することや競う楽しさを感じる生徒も出てきて、国体選手として頑張る姿も見られた。これからもたくさんのスポーツ大会への参加を促したい。	引き続き授業と連携して取り組んでいく。ポッチャが8セットになったので、各学部でもどんどん使っていただきたい。また、オリンピックで障害者スポーツの面白さを感じた児童生徒もいるため、児童生徒と共に保護者や教員への啓発を続ける。	
	④ 保護者、地域等との連携強化	市町村等との連携強化	(支援部)	B	B	今年度も各市町村教育支援委員会に各先生方に参加してもらい市町村との連携を進めることができた。コロナ禍ということもあり、会議自体が減り、直接教育委員会の方と話す機会が減っているため、継続した連携強化に向けて取り組んでいく。	市町村によって、就学前の相談の形が違うため、本校からのかかわり方も様々だが、早期からの教育相談、情報提供がスムーズに行えるよう、こちらからの情報提供をしっかりと行っていきたい。	
「からだ楽々学習会」(夏期集中学習会)の2日実施		(自活部)	C	今年度もコロナにより実施できなかったため、宿題シートと各クラスで作成し、懇談時にクラス担任から保護者に伝える形での代替実施となった。		各学部・学級での啓蒙・啓発を図り保護者の行事としても意識付けを高めていきたい。「からだ楽々学習会・伝達会」として開催し、参加が難しい保護者に対しても「宿題シート」を活用して、伝達機会を特設で設けていくことを提案していきたい。併せて簡単な手技について研修を行うことで、学習会参加に準じる情報を提供していく。		
保護者・支援者対象の学習会の実施		(自活部)	C	今年度は集団での研修が持てなかったもので実施することは難しかった。		「からだ楽々学習会」「家族のためのからだ楽々講座」「事業所向けの公開週間」等で、伝達研修機会を設けて実施していく。		
	⑤ 共生社会の実現に向けた取組の推進	学校間交流の推進	(小学部)	B	A	感染症対策から直接出会う交流はできなかったが、オンラインやビデオなどを活用し、お互いを知り合う場が作れた。	感染症対策から今年度同様に工夫しつつ積極的に取り組んでいく。居住地校交流についても、ねらいや内容について学部内での共有を図る。	
学校間交流の推進		(中学部)	B	学校間交流はDVDや作品交流として実施した。居住地校交流は、相手校の理解を得られ行事参加できたケースもあったが、継続実施できないケースもあった。		リモートを活用した双方向の交流ができるように工夫していく。地域の中学校に、共同学習としての意義を理解してもらい、継続した取り組みを進めていく。		
学校間交流の推進		(高等部)	A	リモートでの交流で画面越したが、直接生徒同士のやりとりができて良かった。		次年度もひきつづき取り組みを進めたい。		
居住地校交流の促進		(教企部)	A	本校職員研修資料を依頼文と同時に相手校に送付し、交流及び共同学習の目標や目的について理解を図りながら進めることができた。		居住地校交流については、来年度以降も各学部・交流校と連携をとりながら効果的に行っていく。		
児童生徒の健康状態の保持・改善		主観的見方・客観的データの相関を検討	(健安部)	A		ヒヤリハット・アクシデント報告書の内容をデータベース化し、毎学期“事故対策委員会”で校内で発生する事故を防ぐ手立てをデータを基に検討した。アクシデントが出れば、臨時で開催した。感染症を防ぐために、環境の設定、教員の取組、マニュアルの周知を図った。疑わしい症状が出れば、即時関係者が集まり検討した。より健康に安全に児童生徒が学校生活を過ごせるように、普通救命講習、緊急時対応シミュレーション、嘔吐時対応研修等の教員研修を実施した。	今年度同様に実施していく。	<p>○ コロナ禍であっても、児童生徒の健康状態の保持・改善に努められたことに敬意を表します。</p> <p>○ 校内でクラスターが発生しなかったのは教員の皆さんの感染症対策の結果だと思います。ありがとうございます。</p> <p>○ 専門医等の連携は、これまで命を守る上では重要であるとの認識のもとに取り組まれてきたと思います。今後とも、自分たちから目を運んで助言を頂けると</p>

①	児童生徒の体調変化への適切な対応	保健スタッフとの連携及び呼吸・排痰支援の実施	(自活部)	A
		医ケア委員会・学校保健委員会との連携による健康維持・向上	(健安部)	A
		自立活動部、健康安全部と連携し健康維持につとめる	(健安部)	A
		感染症発生時の緊急会議の実施	(健安部)	A
②	教職員の医療的ケアのスキル向上及び医療機関等との連携を強化	経験年数別医療的ケア研修の実施	(医ケア委)	B
		宿泊を伴う活動への看護師派遣の調整・実施	(医ケア委)	A
③	専門医等との連携強化及び教育内容・環境の充実	主治医懇談会の実施	(医ケア委)	A
		事業所との連携	(医ケア委)	B
		学期に1回健康相談会の実施	(医ケア委)	C
		整形外科相談の実施	(自活部)	C
		整形外科・療法士と学校との情報共有・連携強化	(自活部)	C

	毎朝の連絡会に参加するとともに、必要に応じて連携しながら、児童生徒の支援を実施している。健康安全部とチェックリストの情報共有等を実施している。	児童生徒の実態に即した形で、支援会議を実施すると共に、連絡会や呼吸関係の研修等を充実させて、連携の強化を図りたい。
A	医療的ケア委員会で取り上げられた児童生徒へは、緊急時対応マニュアルを精選し、学校間で共通性のあるものが作成できるようにしている。学校保健委員会は新型コロナウイルスの影響から今年も実施できなかったが、作成した資料を各関係者に送付した。この委員会では学校の取組を学校医等やPTAへも報告する必要があるので、健康安全部全員で協議を重ねている。	今年度は健康安全部長が保健主事を兼ねたが、業務の重なりも多いので特に支障なく業務を遂行できた。来年度も同様に実施していく。
	装具や摂食場面のヒヤリハット報告が出れば自立活動部長の助言を報告書へ反映した。	次年度も継続して実施する。
	感染症が発生すれば、迅速に緊急会議を開催した。また、今年も新型コロナウイルスへの対応はより慎重に行い、「本校のガイドライン」以外のケースの報告があれば、管理職・各主事・医療的ケア委員長・養護教諭・健康安全部長・教務部長が毎回必ず集まり、対策を検討した。そのことで、本校の感染症への対応はブレなくできた。	即座に関係職員が集まり、迅速に対応できることが、児童生徒の健康の安全を守ることに繋がっている。来年度も同様に実施していく。
A	看護師免許を有する教員で、業者を迎えて経腸栄養の器具変更の研修をし、教職員全員に研修を実施した。基本的な器具研修は健康安全部と連携し実施した。	経験年数別ではなく、基本的な器具研修やタイムリーな情報の提供は、スキルの向上に繋がると思われるため、来年度も基本研修の機会を増やしていきたい。
	今年度、外部看護師の事前の来校も出来なかったが、外部看護師だけの修学旅行もスムーズに実施できた。	今年度同様に、事前にクラスと連携し情報交換等をスムーズに実施できるようにしていきたい。
	昨年と同様、コロナ禍で直接主治医懇談は実施できなかったが、クラスの協力が得られカンファレンスの実施や質問票の作成に取り組めた。	来年度もコロナの感染状況を鑑みて対応していきたい。
	登下校時の児童・生徒の情報交換は出来ている。又、家族の協力もあり訪問看護記録を参考にしているが、コロナ禍でケース会議等の参加は来ていない。	クラスや進路指導部と連携し、ケース会議の参加等、事業所との連携を図っていきたい。
A	今年度も新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。昨年度までは、西久保Dr.とのやりとりは前医療的ケア委員長が長年実施してきたが、担当者が変わることを校長より西久保Dr.へは電話で連絡した。	来年度実施できるのであれば、4月始めに校長より西久保Dr.へ連絡し、健康安全部長と連絡先を交換した後、計画していく。
	整形外科相談を実施できなかった。小学部・中学部に入学してくる児童生徒に対しては、書類での実態の把握と質問形式での相談を予定している。	主治医との連携を取りながら、セカンドオピニオンとしての相談を、積極的にとっていきたい。
	感染症の為、実施できなかった。	必要があれば、その都度実施していく。

関心を持って取り組むこと、関係性を続けてください。

		精神科医個別相談の実施	(健安部)	A	病弱教育部の生徒を対象に実施した。今年度は精神科医が変更となったが、養護教諭、病弱部主事が中心となって定期的に実施できた。また、懇談内容の記録は、養護教諭・健康安全部部长に回覧し、日頃の対応に生かした。3学期には、病弱部教員・養護教諭・健康安全部部长でまとめを行う会議を実施する予定。	今年度同様に実施していく。
		車いす業者により点検・調整の実施	(自活部)	B	連絡調整係を決め、児童生徒の必要に応じて、業者と連絡を取りながら、補装具・座位保持装置等の修正・調節等を実施した。	継続して実施していく。修正や調整については各学級が、継続調整できるように、学級担任の知識向上のため補装具の研修も実施していきたい。
		ケース会議の実施	(病弱部)	A	精神科個別相談やスクールカウンセラー相談において、支援方法のアドバイスをいただき、実態把握や支援について多角的に考えられるようになり、視野が広がった。	来年度も同様の機会を活用し、対応や手立てに生かす。
④	教職員の緊急時対応のスキル向上	緊急シミュレーションの実施	(健安部)	A	学部別緊急時対応シミュレーションは、年間計画に沿って各学部と相談しながら複数回実施した。全校緊急時対応シミュレーションは、新型コロナウイルスの影響で設定日から延期となったが、何とか1年ぶりに実施できた。高市消防署と連携し【常時人工呼吸器を装着している生徒の緊急搬送の仕方】について、実際の救急車を使用して実施した。また、スクールバス職員を対象としたバス内での緊急時対応シミュレーションも高市消防署と連携し実施した。	学部別シミュレーション・全校緊急時対応シミュレーションは今年度同様に実施していく。スクールバス職員を対象としたシミュレーションは今年度で終了とする。月1回のスクールバス打合せ会に健康安全部が複数回参加し、職員には手技を学んでもらう。
		救命救急講習の実施	(健安部)	A	本校に合わせた講習内容にするために、1時間半の講習を設定した。胸骨圧迫・人工呼吸・窒息時の異物除去の仕方等の基本的な救命救急の手技を教職員・スクールバス職員で向上させた。事前アンケートで教職員の知りたい情報を把握し、打ち合わせを行い、高市消防署救命救急士より具体的な返答をもらった。また、当日は新型コロナウイルスの感染対策を徹底し実施した。	今年度同様に実施していく。
		ヒヤリハット・アクシデント報告の徹底及び迅速なフィードバック	(健安部)	A	ヒヤリハット・アクシデントが発生した際は、早急に学部内で周知してもらい、報告書ができれば健康安全部部长または医療的ケア委員長へ提出してもらおう。翌日の職員朝礼で発生状況と対策案を全職員に報告した。報告後に関係職員間で質問や加筆があった場合は後日当事者及び学部主事に伝えた。ヒヤリハット・アクシデントはデータベース化し、年度末に各クラスに印刷してもらい、児童生徒の引継ぎ資料とした。	ヒヤリハット・アクシデント報告書が始末書という認識ではなく、児童生徒の安全を守る対策であるという認識を教職員には持ってもらえるよう周知を続けていく。
教育環境づくりと安全安心の確保		ICT・ATの充実	(教企部)	B	担当から相談があったときには臨機応変に対応した。	ICT機器については効果的な活用方法の研修に積極的に取り組んでいきたい。校内の環境整備は授業づくり研修にからめて全職員で考えるきっかけを作っていく。
		校内の環境整備の推進	(教企部)	B	計画的に取り組めたとはいえない。	

◎子どもたちのために日々、安全安心な環境づくりをしていただいていることにすごく感謝しております。子どもたちが安心して通えるよう、ひきつづきよろしく願います。

① 安全でわかりやすい環境整備	継続的な環境美化の推進	(体安部)	B	B
	継続的な施設点検の実施	(体安部)	B	
	プールの学習の安全・円滑実施と機器管理	(体安部)	C	
	教材・教具の整備点検の実施	(特活部)	B	
② 災害時備蓄品(医療的ケア物品・常備薬等)の整理	常備薬・必要物品の計画的整備の参画	(健安部)	C	B
	医療的ケア物品の計画的整備の推進	(医ケア委)	A	
③ 災害等に対する意識や対応力の向上	災害・防犯等に対するマニュアルの周知徹底及び対応訓練の実施	(体安部)	B	B
	地域関係機関(消防所・保健所等)との連携	(訪問)	B	

職員清掃は月に1回、各学部では週末に清掃を実施している。階段等、訪問教育の先生方、教頭先生が掃除してくださっていた。よく使用している場所などは日頃から環境美化を意識しておく必要がある。燻煙については飲食のある場所に限定して行った。	全職員が日頃から学校施設の環境美化に意識がもてるように、掃除用具の交換や補充など掃除がしやすい環境を整える。劣化が激しい物も多くあり、少しずつ交換していく必要がある。学級等はこまめな清掃、ホウ酸団子でゴキブリ対策、掃除機でのノミダニ対策を続けていく。
火元・設備の安全点検担当を決め、年に3回一斉点検を行っている。異常があるところは事務所に報告し、随時修理交換等を行った。また、その都度気がついた時点で随時対応できるように事務とも連携している。また、防災関係で各棟の点検を月に一度行い、危険箇所の確認報告を行った。また、車椅子やテレビなどベルト固定し、できているかも確認している。	点検表や各学部から上がる声を基に事務とも連携し、学校施設を安全に使用できるよう確実に点検を行う。また、各棟のベルト固定も気にかけて、声かけを行うようにしていく。
全体の掃除、水張り、管理は体育安全部で行った。老朽化に伴い、機械的に不安はあるが、今年度については温度は充分にあげることができ、塩素管理も自動で動かすことができた。ジャグジーの温度管理が難しくなっている。空調は使える状況である。	プールの学習では、安全に留意して計画的に行う。また施設が老朽化に伴い管理が難しくなっているため、業者とも連携して安全に実施できるように努める。ジャグジーの調子が悪いため、次年度も早めに準備を行い、対策を考えていきたい。また、本校でのプールの学習を経験していない教員が増えているため、基本研修をしっかりと行うことと共に、各学部での研修を行う必要がある。教員のプールの学習スキルをアップしたい。また、コロナウイルスの対策も考えていく。
・毎学期末ごとに備品点検を継続して実施した。備品点検台帳の整理と改善を長期的な視点で進めている。	・台帳整理の協力を呼びかけて、引き続き長期的な観点で見直しを図っていく。
体育安全部と連携し防災時の薬関係は整えつつある。	今年度は、薬局より薬を調達するための繋がりや学期ごとの薬関係の管理の仕方については健康安全部が中心となって計画は行った。しかし、来年度より統括していくのは体育安全部とした。
コロナ禍で消毒等もあり点検を2ヶ月に1回としたが、必要な児童は毎月の点検としている。	来年度も2ヶ月に1回で実施。
避難訓練はコロナ禍でも行えるよう密を避けて取り組んだ。避難だけでなく、教室環境やトイレの中など、危険箇所の確認をしながら行った。また、防犯では研修後に少人数の実技を行うことで意識づけを行うことができた。	防災訓練では、感染症を考慮しながら廊下が通れない、各授業に分かれているなど、考えられる様々な災害想定を行い、工夫して取り組んでいく。防災学習においては課程別学習も考慮していく。災害対策委員会では本部の動き、BCP確立までやっていきたい。
地域で安心して生活を送るため、関係機関(関西電力送配電、消防署、保健所、地域の福祉課)に保護者の了解のもと個々の情報提供を行うと共に情報交換(保健所以外)ができた。また、訪問教員間で共有した。昨年度、実施した災害対策避難シミュレーションのビデオを使用して、訪問教育内の研修を行った。	夏期休業中に関西電力送配電、福祉課、消防署に情報提供や情報交換は継続。保健所とは教員全員が出席しての情報交換会はコロナ禍のため中止、情報提供のみになる。保健所との連携は災害時の情報共有以外に家庭や医療を含めた協働を継続する。

しより。  
○来年度はプールの学習が実施できることを願っています。

④	スクールバス安全運行及び緊急時対応スキルの向上	月1回打合せを実施し、スクールバス介助員への緊急対応等の周知	(健康安全部)	B	B	
		スクールバス内でのヒヤリハット・アクシデント報告の周知	(健康安全部)	B		
センター的役割とインクルーシブ教育の推進	①	就学、進学に向けた積極的な情報発信	就学相談等を通し、就学前保護者への情報提供	(支援部)	B	B
	②	障害者理解の推進	学校間交流の推進(再掲)	(高等部)	B	B
	③	肢体不自由教育や病弱教育のセンター的機能の充実	学校訪問や研修協力等を通して、専門的教育のスキルアップを推進	(支援部・教企画部)	A	A
			「動作・身体に関する相談会」「教育相談会」を実施し、手技等の伝達	(自活部)	C	
		奈病連等の開催	(病弱部)	C		
		低高別通信・グループ別通信の発行	(小学部)	A		

年度当初のスクールバス打合せに健康安全部長が出席し、スクールバス内での緊急時対応マニュアルをスクールバス職員と共に読み合わせを行った。年度途中で緊急時対応マニュアルが変更になっても打合せへ参加することなく、担任に周知は任せてしまった。バス内で緊急マニュアルの保管場所と嘔吐対応セットの保管場所の区別がつきにくかったため、今年度整えた。また、今年度は高市消防署の協力のもと、緊急マニュアルを基にした緊急時対応シミュレーションを行った。(3年に1度実施してきた)	年度当初のスクールバス緊急時対応マニュアル読み合わせは、クラス担任から特別に伝える内容がなければ、基本的に健康安全部長が統括して行う。また、今年度もスクールバス緊急時対応マニュアルが年度途中で変更があった場合に打合せ会で全体周知をできなかったため、大きくマニュアルに変更があった場合は担任と健康安全部長で打合せ会に適時出席し、周知を図る。
今年度はスクールバス内でのヒヤリハット・アクシデント報告はなかった。	物を投げる、近くの友達に手を伸ばす等の特に注意が必要な児童生徒については、年度当初のスクールバス打合せ会にて健康安全部長よりスクールバス職員へ周知しておく。ヒヤリハット・アクシデント発生時は適時打合せ会で確認する形をとる。
感染症対策に取り組みながら、安全に教育相談、体験学習を実施することができた。コロナ禍でも工夫して、先生方に協力してもらいながら2回の体験学習を行うことができ、保護者や在籍の園等の先生、保健所の方などに本校の取り組みを伝えることができた。また、継続して、情報を伝えやすいように、肢体不自由部のリーフレットの作成に取り組んでいく。	コロナ禍であることや、専任ではなくなったことで、外部機関との連携や情報発信の面においても、なかなかうまく進められないところがあった。リーフレットを各主事と協力しながら作成し、本校の特色ある教育をよりわかりやすく発信できるように取り組んでいきたい。
学校紹介の画像を作成し、お互いに見合った。直接の交流ができていないので、車いす操作については、行っていない。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。
(教育企画部) 奈良県特別支援教育研究会の代表幹事として会議に参加し、特別支援学校および特別支援学級の担当者との連携を行った。 (教育支援部) 夏期研修の講師依頼を受けて、あおぞらの会で講師としてFBの研修を行った。昨年度開催できなかった「あすかで発見！」は、本年度も実施は難しかったが、HPに教材集を掲載する形での情報発信を行うことができた。支援部だけでなく、本校の先生方の得意を生かして依頼を受けたり、発信したりすることができるように、様々な形を検討していきたい。	(教育企画部) 来年度は、“事務局”としての役割を担う予定であるため、より一層特別支援学級担当者と連携して研究会を進めていく。 (教育支援部) センター的役割としては、今年度も依頼を受けた学校に関しては、電話相談、来校相談、訪問相談と地域の先生と丁寧にやりとりをしながら、児童の支援について相談することができた。また、リモートを活用した特担連の研修で本校も含め各支援学校のセンター的役割について伝える場があり、知ってもらえる良い機会となった。依頼については、支援部だけで対応する物ではなく、支援部を窓口として先生たちの得意を生かして地域の先生と共にスキルアップしてもらう機会として捉えていけるよう、校内での発信もしていきたい。
「動作・身体に関する相談会」は今年度は市町村一箇所の実施予定であったが、コロナ渦のため中止となった。	各市町村へ支援部からの呼びかけとともに、地域での児童生徒や保護者を通しての相談会の実施希望を聞き取り、啓発していきたい。
奈病連は休会。1件、支援センターと情報共有することができた。	教育支援部とも連携を図り、情報発信できる場をつくる。
グループごとの学習の様子や行事の内容など、学校での児童の様子をコメントや写真により発信することができた。	来年度も継続。内容によって低高別、グループ別など伝わりやすい形をとり、取組の理解を図る情報発信を行う。

○ 就学・進学に向けた積極的な情報発信  
・リーフレットについては、地域の就学相談等に活用できるので作成してほしい。また、就学相談で学校のことを詳しく知りたい保護者もいるので、学校経営計画をホームページ載せていただければ活用できるので検討してください。

・就学前相談は、5歳児を中心に行われているようであるが、文科省が「早期から一貫した教育支援」という方針を出しているために、早期における情報収集については、奈良県内の保健師が集まる会があり、そこを起点に情報を収集できることはできると思います。五條市でも保健センター保健師と情報交換しています。その中で肢体不自由児のみならず他の障害児の情報も収集しているところです。

○ 肢体不自由教育や病弱教育のセンター的機能の充実  
・奈良県特別支援教育研究会の事務局を担当することですが、県下の特別支援学級担任との連携を図ることも大事ですが、通常の学級には、体幹が弱い子どもが結構います。また、軽度の肢体不自由児は、通常の学級における特別支援教育の在り方についても最近全国的取り上げられており、奈良県特別支援教育研究会でも進めていくことも必要であると思います。  
・奈良県病弱・虚弱教育連絡協議会については、休会していることであるが、地域の小学校・中学校には、病弱・身体虚弱学



④ 保護者・地域等への積極的な情報発信	学部通信の発行	(中学部)	A	B	定期的に学部通信を発行することで、学部の取組を保護者に発信できた。	学校の様子だけでなく、地域生活の充実や卒業後の進路に関わるような情報も発信していく。	<p>敏が設置校があり、そこに対する情報が入らないのではないかと、奈良県特支援教育研究会とのかかわりができるのであれば、研究会を活用して情報の発信をお願いしたい。</p>		
	学部通信の発行	(高等部)	A		月に1回高等部通信を発行した。学校の行事や学校生活等、保護者が見られない場面などを中心に掲載した。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。			
	オンラインの活用	(訪問)	C		遠隔授業システムの環境整備を行い、各家庭にオンラインを推進した。コロナ禍のため、保護者からの希望があり、遠隔授業したり、行事・集会等で通学の児童生徒と実施したりすることもできた。しかし、保護者や地域等への積極的な情報発信にはいたらなかった。	保護者への情報発信は主に訪問教育通信(談話室)から行った。今後オンラインの活用は、地域(居住地交流校等)も含め、どのような内容が良いのか検討していく必要がある。			
	文化的行事の地域への公開実施	(特活部)	C		・新型コロナウイルス感染症対策のため、実施することができなかった。	・新型コロナウイルスの状況に応じて、実施可能となれば、感染症対策を実施した上で行っていきたい。 ・不審者対策として、色別のリボンを配布している。職員間や関係者への認識も高めていく。			
効率的・組織的な業務運営と人権等の意識向上	① 日常業務等の効率化	校務支援システムや情報機器の有効活用	(総務部・教務部)	A	A	各会議や研修では、meetを活用し、感染症対策をとりながら円滑に進めることができた。また、chromebookの配布に伴い、夏期休業に校内研修を行い、授業等での活用促進に繋げた。イラストレーターやフォトショップの部内研修も行った。	アンケートについてはformsの活用を図り、業務の軽減化を進めるとともに用紙使用数の削減に取り組んでいく。	<p>○ 積極的な学校改善の推進 中学部では、懇談や連絡帳で得た保護者の思いを学部で共有したと書かれているが、他学部はどうなのか？全学部、部門で同様な取り組みが必要でないかと思います。</p>	
	② 教職員の個人情報やプライバシー保護及び人権意識の向上	情報管理の徹底 「児童生徒が主体となるよりよい支援」研修の実施	(総務部) (教企部)	A A	A	校務系、校務外部系のデータ整理を進めた。 生活年齢に応じた関わりや指導ができているかを話し合い、それぞれが振り返りながら意見を共有することができた。	次年度もひきつづき取り組みを進めたい。 「児童生徒が主体となるよりよい研修」は、日常の教育活動に活かすことができるよう年度のできるだけ早い時期に実施していきたい。		
	④ 各種のハラスメントの防止	定期的な状況確認	(学安衛委)	B	B	A	委員会の中でハラスメントがないかの話しは行った。しかし、ハラスメントが行われている場合、それを人に訴えることができない場合もある。そこが問題になる。		ストレスチェックの中にハラスメントの内容を入れてもらうなど、訴えやすい環境を創ることが大事であると思う。
	⑤ 積極的な学校改善の推進	各行事後の保護者アンケートの実施	(各部)	A	A	(小学部) アンケート結果をもとに改善をすすめた。 (中学部) 参観後にアンケートを実施し、保護者の意見を集約した。また、懇談や連絡帳を通じて出てきた思いを、学部で共有できた。 (高等部) アンケート結果を元に改善できることを話し合って今後に生かすようにした。	保護者の思いに耳を傾けながら、より良い関係づくりに務める。保護者からあがった意見を参考にしながら、学部運営に生かしていく。		
			学校グランドデザインの作成	(運営委)		B	B		継続すべきことには引き継ぎながら、昨年度の課題をもとに立案した。
PTA・同窓会の活性化	① PTA活動の充実	R3全病連に向けた体制整備及び奈良養護との連携	(教頭・病連部)	B	B	B	Web開催となり奈良養護及びPTAでの実務はなくなったが、病連関係ではご協力いただいた。 役員会開催後は、記録を作成し、職員室掲示とともに、保護者配付の際にはクラス分を配付し、教職員にも見ていただける環境を整えた。	奈良養護とは、それぞれの病類種別で活動する。(病連) 今後も役員会開催後には、時間を空けずに審議内容の公開を継続していく。	
		PTA活動の教職員への周知	(教頭)	B	B		開催の準備はしているが、コロナのため実施できていない	コロナの影響にもよるが、準備は進めておく。	
② 同窓会活動の充実支援	同窓会総会の運営支援	(進路部)	B	B					